



姉崎 満

Al Gharbia Pipe Company 前CEO

中東協力センター 50 周年に際しまして

この度は、中東協力センター設立50周年、おめでとうございます。第一次オイルショックをきっかけに設立され、それ以来日本と中東・北アフリカ諸国との経済交流を綿々と支援されてきた貴センターに、私が関わりを持ったのは2012年のことでした。当時 JFE スチールの鋼管輸出担当の営業部長として、アラブ首長国連邦 (UAE) に石油・天然ガス輸送用の鋼管製品の製造拠点を立ち上げ、同国を始めとして中東諸国に販売しようという企業化調査 (FS) を始めたところでした。

会社全体としても中東への進出は初めてであり、すべてが手探りでした。そうした時に、貴センターが UAE 進出の FS を支援する施策があることを知り、現地の情報収集、現地関連企業の紹介、出張旅費支援と多岐にわたるサポートをいただきました。おかげさまで2015年5月に、アブダビ国営系の投資会社 SENAAT (現 ADQ) との合併で、Al Gharbia Pipe Company (AGPC) という鋼管製造販売会社を設立させることができました。

その後、私は2017年10月に同社の初代社長としてアブダビに赴任し、今年9月に日本に帰任するまでの丸6年間、同社に勤務しました。この間、工場稼働直後のコロナ禍による困難はありましたが、何とか成長軌道に向けて足がかりを作ることができました。

アブダビ駐在中においては、継続的な情報交換のほかに、2019年9月に東京で実施された ADNOC/Japan Supplier Partnership Forum で現地進出している日系企業を代表して講演する機会をいただいたり (添付写真参照)、中東協力センター設立50周年を記念して制作された日・UAE の友好関係を綴ったビデオに参加させていただいたり、引き続き貴センターと密接に連携させていただきました。



前者の Forum で来日した ADNOC 要人とは親密に過ごす機会をいただいたおかげで、その後の同社との実ビジネスでの人脈構築につなげることができました。

こうしたビジネス関係以外にも、貴センターのアブダビ前所長の澤田さんとは、アブダビでの自転車部活動を通じて、また現所長の田中さんとは日本人会活動を通じて、プライベート面でもいろいろと交流させていただきました。そういう意味では、私のアブダビ進出検討の初期段階から、アブダビでの駐在生活終了に至るまでの約12年間、公私ともに貴センターに大変お世話になりました。改めて、ここに深く感謝申し上げます。

AGPC は、日本の製造業のスピリッツを核として持つ日系企業です。今後は事業の安定・成長とともに、UAE 国籍 (エミラティー) 人材の採用と育成、同国学生のインターンシップや社会科学習としての工場見学の受け入れを通じて、UAE と日本の交流の懸け橋としても一層力を注いでまいります。引き続き貴センターとの連携、交流をお願いさせていただき、私からのお祝いと期待のメッセージとさせていただきます。

